

核廃絶運動にノーベル平和賞

10月6日、2017年のノーベル平和賞が、国際的な核廃絶運動をすすめる「核兵器廃絶国際キャンペーン」に授与されることが決まりました。今年7月国連での「核兵器禁止条約」成立に続く快挙となりました。

広島、長崎の被爆者を先頭に、世界の平和を願う人々が続けて来た、長年の核兵器禁止運動が世界的な評価と励ましを受け、さらなる発展とひろがりを見せることでしょう。

被爆はしていませんが、幼・少・青年期を長崎市で過ごした私にとっても、嬉しい、嬉しいニュースです。私たち一家が戦後暮らした場所は長崎の爆心地に近い所でしたから、同級生にも被爆者はたくさんいましたし、身近な人で平和運動に参加する人も少なくありませんでした。

私自身、19歳の夏「原水爆禁止平和行進」に初めて参加し、長崎市郊外(当時)の矢上から平和公園まで歩きました。老若男女多くの人たちが「原爆許すまじ」の歌を歌いつつ行進し、その行列に、沿道の家々から出て来た人たちが、手を振り、声をかけ、募金箱になにがしかのカンパを投入するのです。この激励は行進の間中途切れなく続きました。人生観を大きく揺さぶられた一日でした。

以後サラリーマン時代の一時期を除いて、平和行進には欠かさず参加してきました。今後も歩ける限り参加し続けるつもりです。

北朝鮮の核実験、ミサイル開発が世界を脅かしている今こそ、世界中で核廃絶の声を高め、その中で唯一の被爆国・日本が積極的な役割を果たすべき時です。しかるに日本政府はこの世界の流れに背をむけた態度をとり続けています。「戦争ノー、核なき世界を」の方向に政治の舵を切り替えるべきだと強く思います。その為にも憲法守り抜く力を大きくしたいものです。



↑ツルニンジン(二上山で)

行きつ戻りつの秋を歩く

気象の異変でしょうか、涼しくなったり、夏日がもどったり。不安定は季節の変わり目の特徴とは思いつつも、年齢を重ねるごとに、移り気な秋の気候について行けない自分を情けなく思ったりしています。

今は総選挙モードで山に行けない日々ですが、9月には二上山や岩橋山、榛原の額井(ぬかい)岳を、



そして下旬には伊豆半島の天城連山を歩いて来ました。

二上山では久々にツルニンジンが3か所で花を見せ、オケラやコウヤボウキが咲き、天城高原ではツワブキの花が沿道を黄色く染め、

↓オケラ(二上山で)



天城山ではトリカブトやキクの仲間が目立ちました。

続・二上山に咲く花々 34

ツクバネウツギ(衝羽根空木)

スイカズラ科ツクバネウツギ属

写真 澤木仁 さん

日当たりのよい雑木林に自生する落葉低木。高さ2メートルくらいに。花期は4～6月。枝の先に二つの花を咲かせ、花は白または淡黄色の鐘状漏斗形(2～3cm)で下の唇弁に黄色の網目模様があります。花の基部に5片の罅(がく)片があり、これが茶褐色になってよく目立ち、これを付けた実が正月の羽根つきの羽根に似るのが和名の由来。



続・二上山に咲く花々 35

コバノガマズミ(小葉蒲染)

スイカズラ科ガマズミ属

写真は 澤木仁 さん

雑木林の中で自生する落葉小低木(2～4m)。名は葉の小さいガマズミという事ですが、ガマズミの語源がはっきりしません。4～5月頃、枝の先に散状花序を出し、小さい(直径5mm)白い花をたくさん咲かせます。秋には紅葉し、9～10月ごろ、球形の真っ赤な実を着けます。庭木や公園の植え込みにも使われます。



続・二上山に咲く花々 36

マユミ(真弓)

ニシキギ科ニシキギ属

写真は 澤木仁さん

雑木林の林縁などに自生し、5～6月頃小さい(直径8ミリ)淡緑色の花をまばらに咲かせますが、その形が十字形です。秋にみえる果実は淡紅色でよく目立ちますが、熟すと果皮が割れ、鮮やかな朱い種子が現れてさらに目立ちます。材質はしなやかで強く、日本の弓の材料にされて、それが名前の由来となりました。



医療講演会 わかりやすい「ひびのはなし」

いつ 10月28日(土)午後1時半～

どこで 大和高田市大谷274 大和大谷別院(お寺)講堂

講師 香芝旭ヶ丘病院 藤井 唯誌(ただし)医師

入場無料 どなたでも参加できます

主催 健生会友の会高田西支部

お問い合わせは 健生会友の会(0745-22-2989) 又は松尾忠(090-2102-2595)まで